

学校だより 	 令和8年 7月号 7月1日発行	教育目標 やさしさ つよさ たくましさのある さくら小の子 大島町立さくら小学校 〒100-0102 大島町岡田字長坂 113 電話 04992-2-8021 ファクシミリ 04992-2-8853 E-mail 02T000@izu-oshima.ed.jp 大島町立さくら小学校 検索
--	--	--

ワールドカップをきっかけに

校長 野澤 啓幸

現在、世界中の人々が注目するサッカーワールドカップが開催されています。同じサッカーでも各国のプレースタイルの違いが鮮明に表れています。試合会場だけでなく、それぞれの国で応援している人々の様子から、それぞれの国に異なる文化があることに気付かされます。見たプレイをきっかけにその選手や国を知ろうとする、初めて聞く国の国旗や地図上の位置を確認する、特産品やグルメを調べる、といった世界中で起きている行動の原動力は、自分とは違うものへの興味です。子供たちにも自国の代表が史上最強と言われて注目度が高まっているこの大会を「違いへの興味」をも一つ一つのきっかけにしてほしいと思います。

そして、夏休み前のこの時期、学校での1学期の活動を振り返りながら、子供たちが自らの成長を自覚し、新たな目標をもつことができるよう指導してまいります。ご家庭でも日々の生活の中で感じる子供たちの成長を価値付ける言葉をかけてみてください。その言葉が子供たちの更なる成長への意欲や勇気につながります。また、個人面談では、限られた時間ではありますが、1学期中の成長について、さらに伸ばしていきたい部分について、ご家庭での様子で気になる点について、等々、子供の姿を共有しながら、担任と話をさせていただきますようお願い申し上げます。

<災害への備え>

6月は、3度に渡る台風やそれに刺激された前線の活発な動きに備えた臨時休校・登校時間の変更へのご協力、ありがとうございました。今後も引き続き、大島町防災対策室、教育委員会と連携し、保護者・地域の皆様のご協力を賜りながら災害への備えをしていこうと思います。また、授業中、休み時間、災害の種類等、様々な想定で実施している毎月の避難訓練では、より実効的で子供たちが命を守る行動を身に付けられるよう、実施後の振り返りを基に改善を図っています。

「言葉と言葉づかい」 【7月の生活目標】言葉づかいにきをつけよう

7月生活目標担当

子供たちは学校で安心して過ごし、仲間と楽しくいられることを望んでいます。そのような仲間を作るために大切にしなければならないものの一つに「言葉」があります。人との関係をつくる、コミュニケーションをとるために「言葉」は必ず必要です。相手のことを理解するためにも「言葉」は重要な役割を果たします。言葉づかいは、その後の関係に大きく影響を及ぼす重要なものです。子供同士のつながりが強くなると言葉づかひに変化が表れます。わざと悪い言葉を使ったり、意味を深く考えないで大人が使う言葉を真似したりします。さらに、マンガやテレビ、芸能人、ゲームの影響を受けても変わります。気になる言葉遣いは大人が指摘し、言葉の大切さや正しい言葉遣いを教える必要があります。学校では、子供たちが集団の中で安心して話ができる環境を整えたり、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える話し方についても指導したりしています。ぜひご家庭でも、子供たちの言葉遣いに、耳を傾けてみてください。

私が5年前まで働いていた渋谷区が掲げる未来像・基本構想のスローガンは、「ちがいを ちからに 変える街」でした。5年が経った今でも鮮明に覚えていて、ふとしたときに思い出します。先日、小池先生も渋谷区で一緒に働いていたので、「渋谷区のスローガン覚えてる？」と聞いてみたところ、同じように覚えていました。

なぜこれほど印象に残っているのか考えてみると、渋谷には本当に多種多様な人々が暮らし、多様な考え方をもちた人々が共存している街だと日頃から感じていたこと、そして、その縮図ともいえる学校という場所の面白さを働きながら実感していたことが大きな理由なのだと思います。

私はこの島に来てからも、本当に多くの人々と出会い、さまざまな考え方に触れてきました。特に、特別支援教室の巡回指導員となって今年で2年目を迎え、島内すべての小学校の子供たちの顔や性格、そして学校に関わる多くの方々への理解が少しずつ深まっています。この経験は、自分にとって大きな財産となっています。

そして改めて感じるのは、この島の子供たちも大人たちも、本当に多様で面白いということです。その一方で、特別支援教室に通う子供たちに対して、「あそこは勉強ができない人が行くところでしょう?」「障害があるから通っているんでしょ?」といった心ない言葉が向けられることがあります。そのような声を耳にすると、とても悲しい気持ちになります。もちろん、人それぞれに考え方があります。しかし、特別支援教室は「障害の有無に関係なく、学校生活の中で困り感を抱えている児童が、自分らしく学び、成長するための場所」であるという正しい理解を伝え続けていきたいと思っています。そもそも学校生活の中で、まったく困り感をもたずに過ごしている子供のほうが少ないのではないのでしょうか。「みんなと違う時間に学ぶこと」「みんなと違う場所で学ぶこと」「みんなと違う方法で学ぶこと」そうした違いを否定的に捉えるのではなく、一人一人に合った学び方や成長の仕方があることを自然に受け入れられる子供たちに育ててほしいと思います。島の未来を支える担い手である子供たちには、さまざまな人を受け入れる土台を育ててほしい。そして、分からないことや自分と違うことに出会ったとき、排他的・否定的に捉えるのではなく、「へえ、面白いね」「そうなんだ」と興味をもって向き合える人になってほしいと願っています。みんな違うからこそ面白い。違いがあるからこそ学び合える。そんな考え方が、この島全体に少しずつ広がっていくことが、私の願いです。

感じて、動こう～FEEL and MOVE～

5年担任

「雨降って地固まる」なんて素敵な言葉でしょう。自然教室の当日の朝。外は雨。まさにこの言葉通り。この5年生にはぴったりの天候でした。一見仲が良くまとまっていそうに見える子供たち。果たして本当にそうなのだろうか。このクラスの担任になって2か月余り。真の子供たちの姿が見られるであろう自然教室。どんな姿が表出するのか楽しみでした。一泊二日の集団生活。トラブルあり、心のすれ違いあり、失敗もあり。そこで現れる人間の負の部分。まさに雨。「早く持ってきてよ!」「なんでそんなことするの!?!」「面倒くさい。」「もう疲れた。」弱くもある、強い言葉たち。その負の部分を見つめ直し、合意形成に向けて対話をする。まさに地固まる。「言い方がきつくてごめんなさい。」「大丈夫!」「最後まで頑張ろう!」「やるからには楽しもうよ!」

言葉で傷つけ、言葉でつながる。相手の気持ちの感じて、動く。それができれば、これからももっといいクラスになる。そう確信できた一泊二日でした。



さくら小学校行事予定は、さくら小学校ホームページからご覧ください。
年間行事予定及び月ごとの行事予定は、前月の中頃まで掲載します。

